

データヘルス計画書（健保組合共通様式）

計画策定日：平成27年2月27日

最終更新日：平成28年9月29日

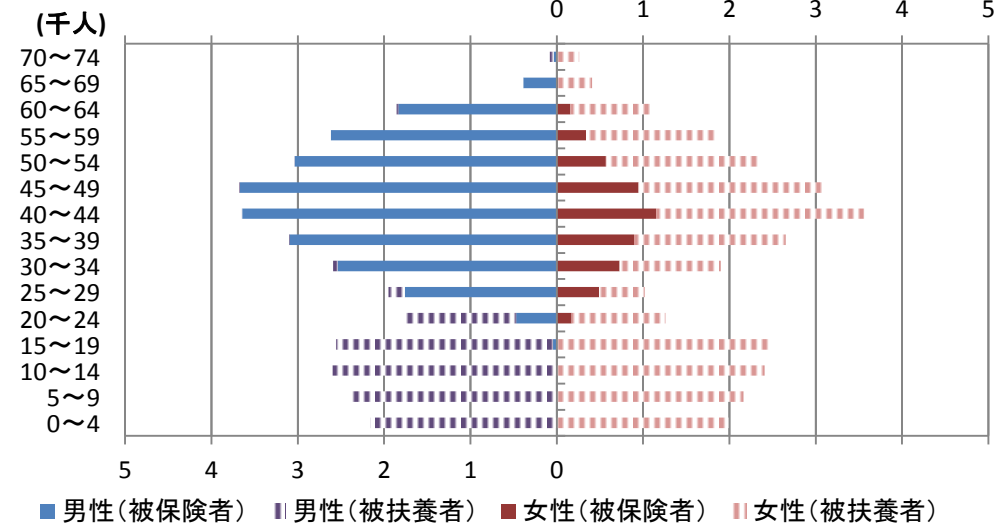
三菱化学健康保険組合

STEP 1 - 1 基本情報

「全健保組合共通様式」

組合コード	21415
組合名称	三菱化学健康保険組合
形態	単一
被保険者数（平成27年度予算 注） * 特例退職被保険者を除く。	28,541名 男性80.9%（平均年齢44.5歳）* 女性19.1%（平均年齢41.3歳）*
特例退職被保険者数	0名
加入者数（平成27年度予算 注）	63,590名
適用事業所数	65ヵ所
対象となる拠点数	64ヵ所
保険料率（平成27年度 注）*調整を含む。	101%
	全体 被保険者 被扶養者
特定健康診査実施率（平成25年度）	70.3% 82.5% 46.6%
特定保健指導実施率（平成25年度）	13.8% 14.9% 0.7%

		健康保険組合と事業主側の医療専門職 （平成27年3月末見込み）	
		常勤	非常勤
健保組合	顧問医	0	0
	保健師等	0	0
事業主	産業医	10	0
	保健師等	27	0



(注) 記載要領参照

保健事業費	予算額（千円）	被保険者一人当たり金額
	（平成27年度 注）	（円）
特定健康診査事業費	47,097	1,650
特定保健指導事業費	18,292	641
保健指導宣伝費	61,986	2,172
疾病予防費	275,300	9,646
体育奨励費	9,000	315
直営保養所費	9,380	329
その他	2,240	78
小計 …a	423,295	14,831
経常支出合計（千円） …b	16,371,920	
a/b×100（%）	2.59	

1. 大規模な健保組合（被保険者数2万8千人、加入者数6万3千人）である。
2. 事業所の拠点が全国にあり、加入者も点在している。
3. 当健保組合には、医療専門職が不在。

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

健保組合の取組															
予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価		
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因			
特定健康診査事	1	特定健診(被扶養者)	【目的】特定健診の受診率向上、加入者の健康維持。 【概要】メタボリックシンドロームに注目した健康状況の把握およびリスク者のスクリーニング。G会社であるLSIM社に健診予約・精算業務を全面委託。	被扶養者	全て	男女	35	～	74	全員	35,432	受診者数 5,086名 受診率 50.3% ※40歳以上の数値	・自宅宛に案内冊子を送付。□ ・WEBでも電話でも予約可能。□ ・9月に未予約者宛、受診勧奨ハガキを送付。□ ・就業先での受診結果の提供を依頼	受診する側に健診受診の重要性を喚起できていない。	2
特定保健指導事業	3	特定保健指導(外部委託・集合契約)	【目的】特定保健指導の実施率向上、生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善。 【概要】(被保険者) □ 外部事業者を利用し、就業時間内に指導を実施。□ (被扶養者) □ 集合契約Bの利用券を送付し、近隣の医療機関にて指導を実施。	被保険者 被扶養者	全て	男女	40	～	74	基準 該当者	8,611	終了者数 503名 実施率 17.3%	・被保険者の指導を就業時間内に実施可能とした。□ ・被扶養者の対象者全員に利用券と情報提供誌(QUPIO)を送付。	・被扶養者の指導受診の重要性が喚起できていない。	1
保健指導	6	前期高齢者訪問健康指導事業	【目的】病気やけが等の予防および、頻回受診や重複受診等の問題受診行動の適正化。 【概要】加入者のレセプトを分析し、診療内容や処方内容、受診日数、受診医療機関数、保険点数等から介入対象者を決定。訪問の同意が取れた対象者に自宅での保健指導を実施。	被扶養者	全て	男女	64	～	74	基準 該当者	4,363	対象者数 373名 応諾者数 174名 □ 応諾率 46.6%	—	長年取り組んでいる事業であるが、他健保の応諾率が50%と低い。実施形態の見直しが必要。	2
	7	保健事業(事業主)	【目的】被保険者本人の健康度の改善。 【概要】事業主が被保険者に向けて企画する健康に関する講演会やセミナー研修等に補助を実施。	被保険者	全て	男女	18	～	74	全員	10,461	予算執行率 49.4%	・予算を産業保健業務を受託する母体を中心に配賦を行った。□ ・期の途中で事業所の実態にあわせて実施内容を柔軟に決定できるようにした。	・編入事業所が60社以上ある中で、全体を巻きこんでの事業実施が必ずしもできていない。	2
	4	健康情報提供(QUPIO)	【目的】被保険者と被扶養配偶者の健康リテラシー向上。 【概要】健康ポイントプログラムを有するWEBサービスにログインする事で生活改善の計画立案や日々の行動記録が可能、健診結果に対する情報提供が得られる。	被保険者 被扶養者	全て	男女	18	～	74	全員	2,772	被保険者登録率 14.2%	・健康イベントを実施する事で前年度より利用率が増となった。	・機能改善をベンダーと協力して取り進め、より一層の利用者数増を目指す。	1

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

宣 伝	7	医療費・後発医薬品差額通知	【目的】後発医薬品の使用促進、調剤医療費の適正化。□ 【概要】WEB上で医療費・後発医薬品差額通知を確認できるサービスを導入。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	全員	3,956	利用被保険者数 2,740名□ 利用率 9.7%	—	引き続き周知を行い、利用率を上げる。	1
	7	機関誌発行	【目的】情報発信、健康意識の醸成。□ 【概要】機関誌（健保の運営、収支、保健事業、健康情報等）の発行。（2回/年）	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	全員	1,166	4月、10月年2回発行、共通掲示板・HP等に掲示。	—	保健事業等、必要な情報の掲載。	1
	3	生活習慣病重症化予防事業	【目的】糖尿病患者の人工透析移行及び、高血圧の重症化の防止。□ 【概要】健診結果及びレセプトを突合分析し、対象者を抽出。指導の同意の取れた対象者にタブレット端末を貸与、テレビ会議システムによる面談指導を実施。主治医にも指導内容を共有。	被保険者 被扶養者	全て	男女	35	～	74	基準 該当者	677	【健保のみ】□ 案内送付 390名□ 応諾者数 59名□ 応諾率 15.1%□ 【会社との合算】□ 対象者数 547名□ 応諾者数 216名□ 応諾率 39.4%□	・会社産業保健スタッフとの協働により、対象者の応諾率が上がった。	他健保と比較し応諾率が低いわけではないが、多くの対象者に重要性を喚起できていない。	1
疾 病 予 防	1	生活習慣病検診（事業主健診補助）	【目的】生活習慣病やがんの早期発見。□ 【概要】事業主健診実施時に健保が費用補助をし、大腸がん・胃がん検診・眼底検査を実施。 ※対象 35歳以上の被保険者□ ※50歳以上の男性被保険者については前立腺がん検査の補助を実施。□ ※女性被保険者については年齢にかかわらず乳がん・子宮がん検査の補助を実施。	被保険者	全て	男女	35	～	74	全員	105,120	受診者数 22,500名	会社で実施する健診とセットとすることで受診率が高い。	・要再検査になった場合、個人の判断に委ねられてしまう。	4
	1	人間ドック・脳ドック	【目的】生活習慣病やがんの早期発見。□ 【概要】特定健診項目に各種がん検査項目を追加して同時に実施。グループ会社であるLSIM社に健診予約・精算業務を全面委託。	被保険者 被扶養者	全て	男女	35	～	74	全員	32,148	人間ドック□ 受診者数 1,558名□ 脳ドック□ 受診者数 171名	・集団検診ではなく、個別に時間をかけて受診が可能。□ ・会社で定期健診を受ける被保険者にも補助を実施。	健保補助項目と合わせ、会社の定期健診時の項目とほぼ同水準であるにもかかわらず、食事券等のサービスもある事から個人負担の比重を上げた。	1
体 育 奨 励	7	健康イベント	【目的】被保険者本人の健康度の向上。□ 【概要】被保険者を対象とし、ウォーキングを中心としたイベントをWEB上で開催。取組達成度に応じ、賞品と交換できるポイントを付与。	被保険者	全て	男女	18	～	74	全員	934	参加者数 1,921名	—	・参加者数を上げるため会社との協働（コラボヘルス）という打ち出しが必要。	1
直 営 保 養	7	直営保養所	【目的】加入者の静養、心身のリフレッシュ□ 【概要】健保と会社が共同で保有する保養所の運営を委託。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	全員	2,912	利用者数 628名	—	・利用者数も少なく、医療費適正化に資する面が見出しづらい。	1

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

事業主の取組								
事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	

注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他

注2) 1: 39%以下 2: 40%以上 3: 60%以上 4: 80%以上 5: 100%以上

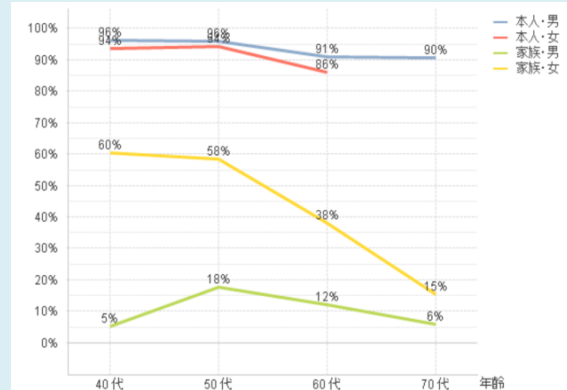
STEP 1 - 3 特定健診・特定保健指導の実施状況

【特定健診の実施率】

ア. 受診率の推移

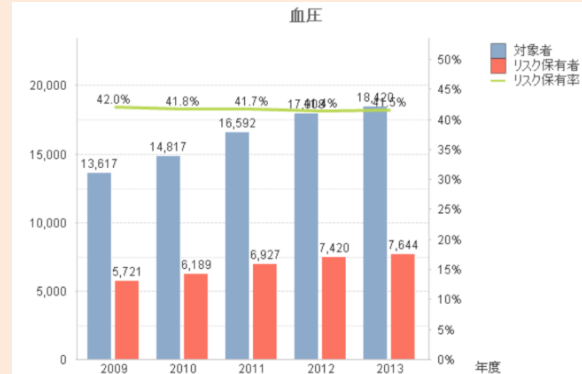


イ. 年代ごとの受診率

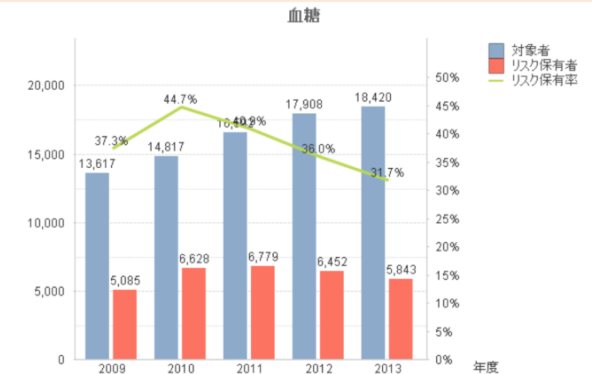


【リスク保有率の推移】

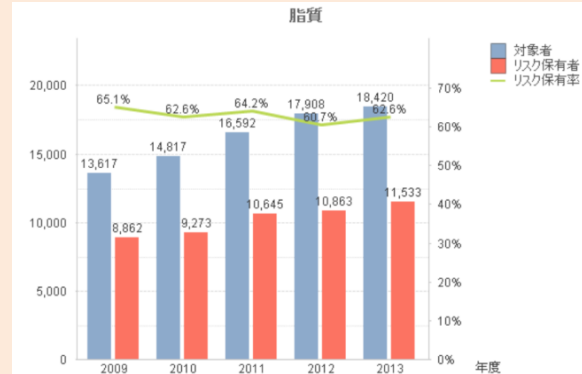
ウ. 血圧



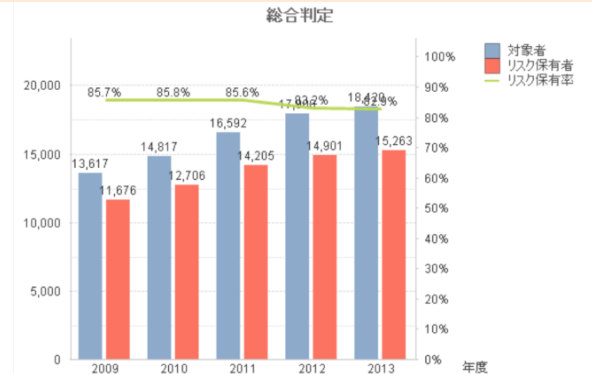
オ. 血糖



エ. 脂質



カ. 総合判定



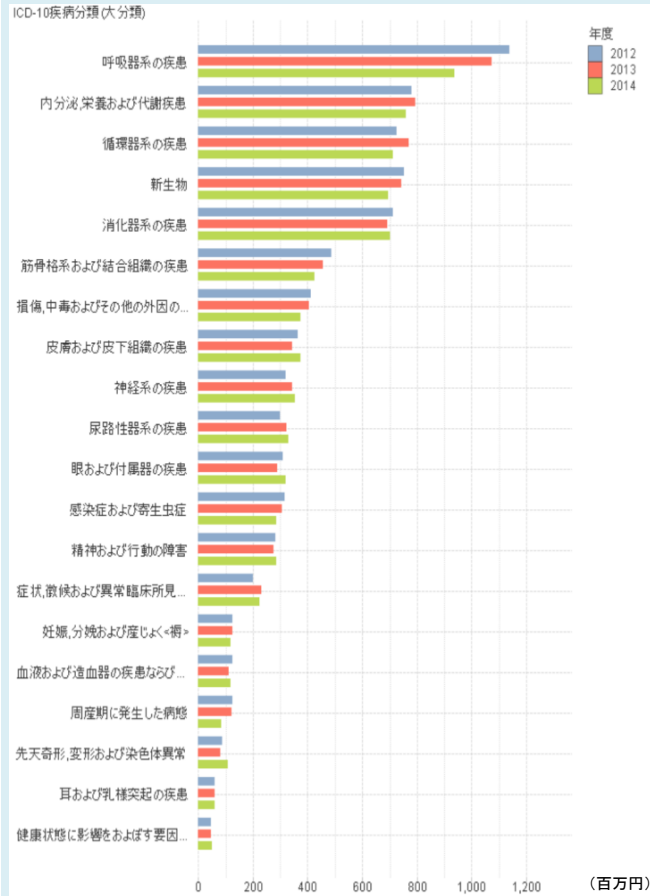
ア、イ 被保険者(本人)の受診率は90%弱で、高率である。ここ数年変化はない。
被扶養者(家族)の受診率は45%で、過去5年間で10ポイント程度上昇している。これにはハガキでの受診勧奨が寄与していると考えられる。
年代別では、60代被扶養者(家族)の受診率が低くなっている。

ウ、エ、オ、カ 総合判定でのリスク保有率は80代半ばを緩やかに減少している。
血圧・脂質は減少しているものの、その動きは緩やかである。
血糖は2010年度を境に減少しており、保健事業の効果があるものと推測している。

STEP 1 - 4 一人当たり医療費

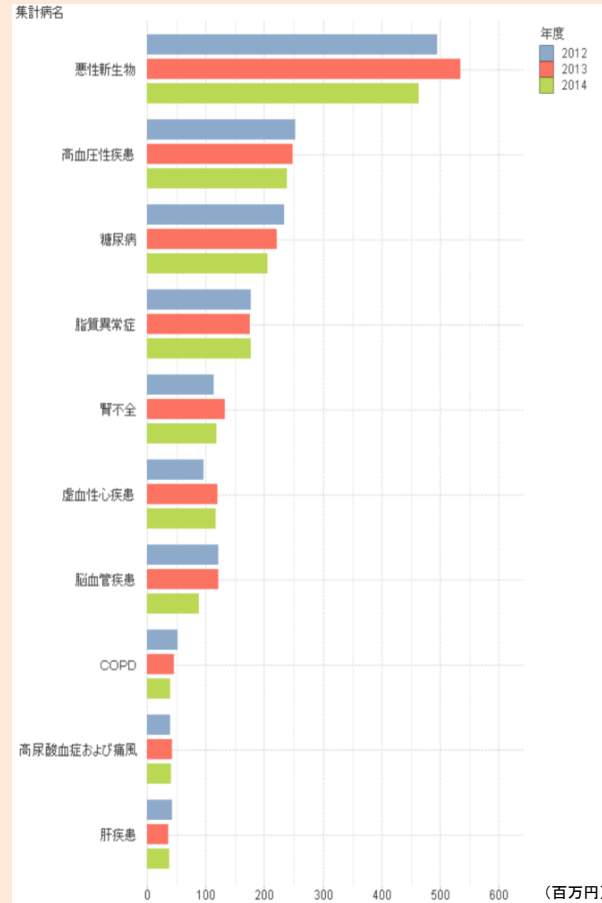
【大分類別】

キ. 医療費の推移

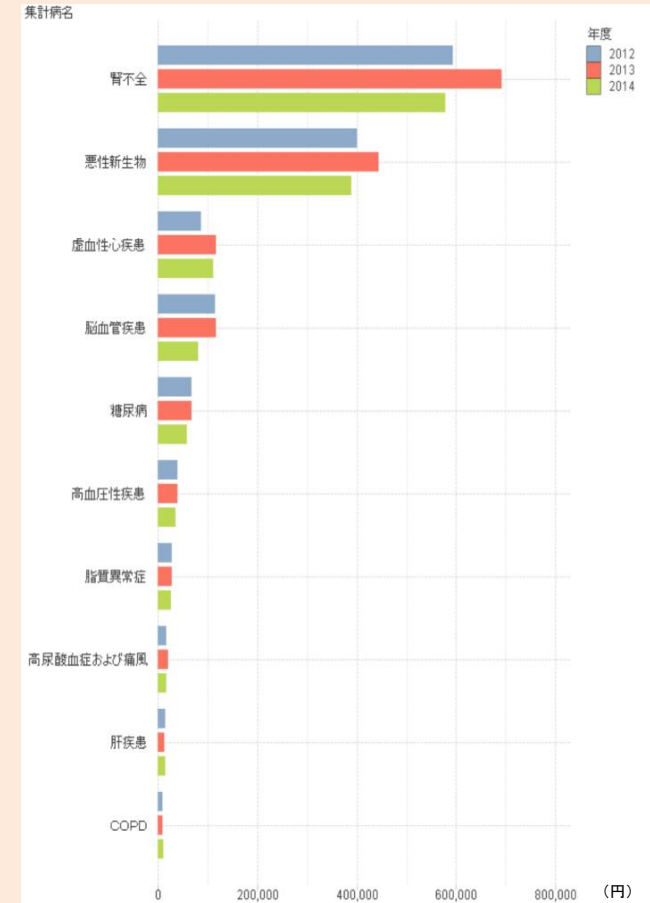


【特定病名】

ク. 医療費



ケ. 一人当たり医療費



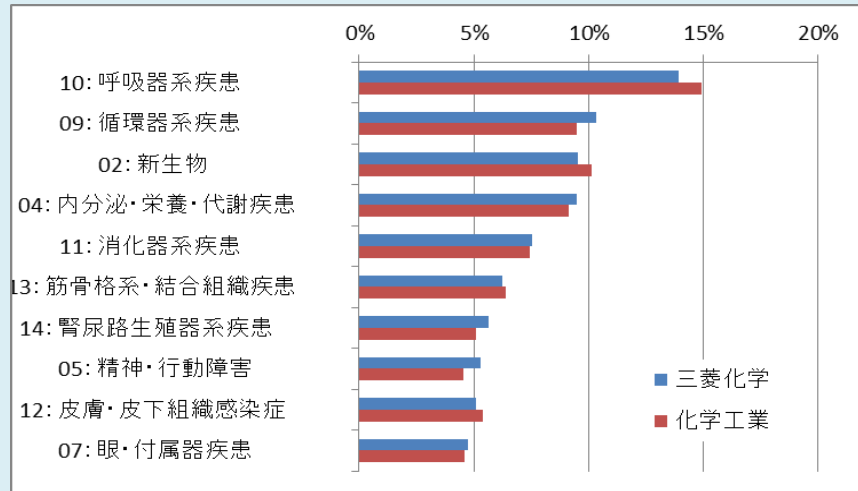
キ 医療費の上位は、「呼吸器の疾患」、「内分泌、栄養および代謝疾患」、「循環器の疾患」、新生物の順であった。

ク、ケ 生活習慣病・がん等の状況を確認するために、疾病分類毎に医療費を集計した。医療費は「悪性新生物」、「高血圧性疾患」、「糖尿病」の順で多かったが、一人当たり医療費は「腎不全」、「悪性新生物」、虚血性心疾患」「糖尿病」の順で高額であった。

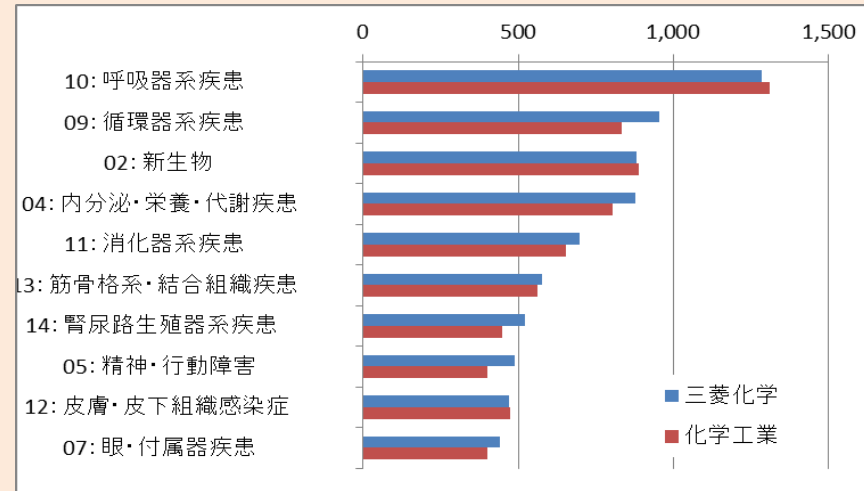
STEP 1 - 4 一人当たり医療費

同業種での比較

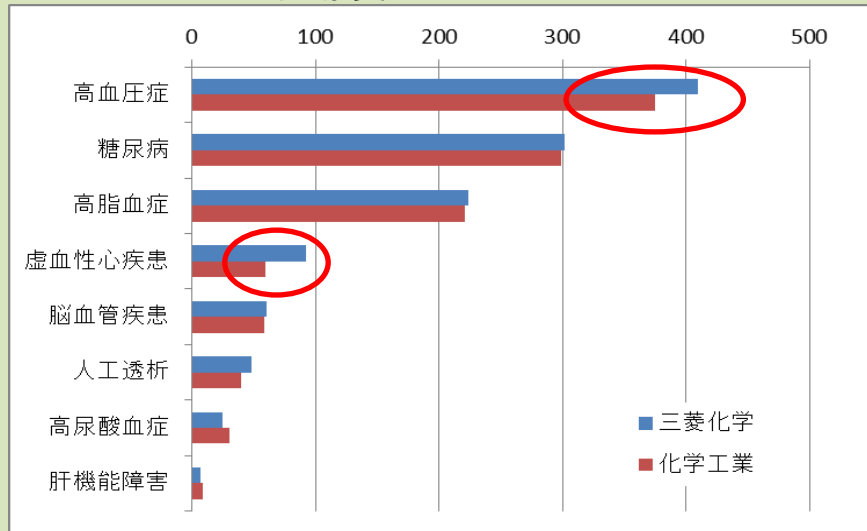
キ'. 医療費(上位10位)



ク'. 一人当たり医療費(上位10位)



ケ'. 一人当たり医療費

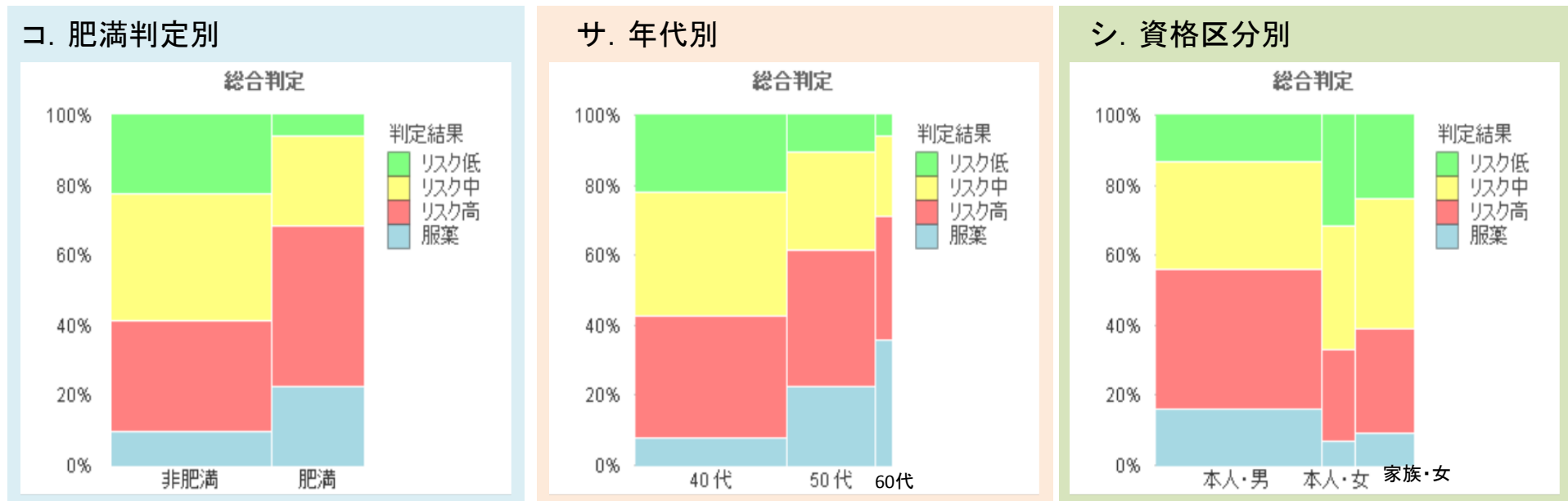


キ' 分類別の医療費を化学工業(業界)と比較した場合、「呼吸器系疾患」で低く、「循環器系疾患」で高い傾向が認められた。

ク' 一人当たり医療費を化学工業(業界)と比較した場合は、「呼吸器系疾患」で低く、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」で高い傾向が認められた。

ケ' 病名毎に集計したところ、「高血圧症」、「虚血性心疾患」で一人当たり医療費が化学工業(業界)より高かった。

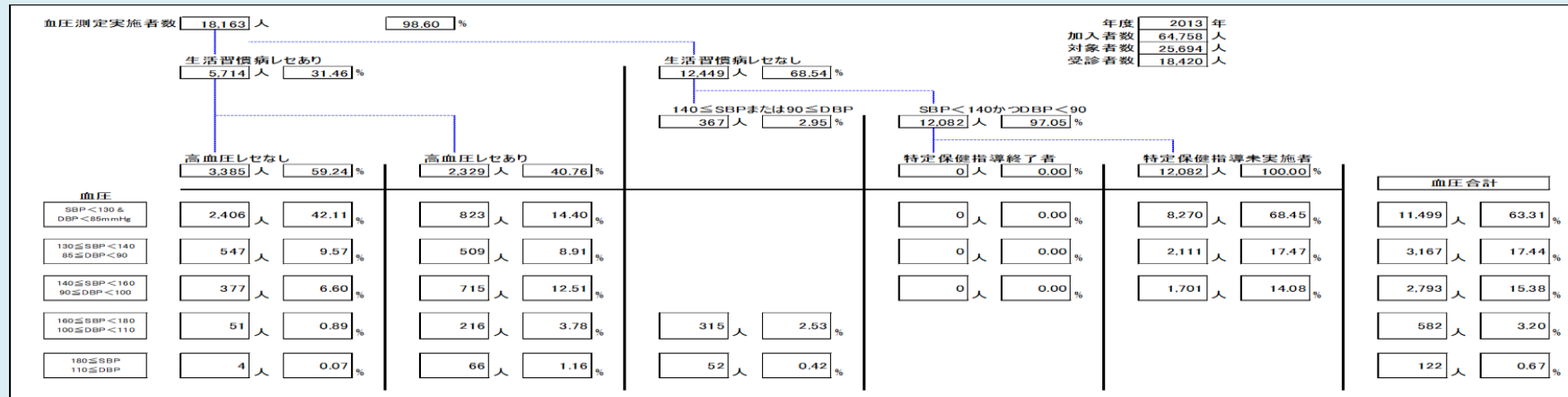
STEP 1 - 5 健康分布図



- コ** 肥満の判定を受けている者の60%以上は「服薬」または「リスク高」である。
特定健診では指導対象から除外されている非肥満でも「服薬」、または「リスク高」が40%程度存在している。
- サ** 年齢が上がるとリスクは高まっている。
- シ** 資格区分別では、被保険者(本人)・男性の比率が高く、かつ「服薬」または「リスク高」の割合が高いため、保健指導の最初のターゲットと考えられる。
次に被扶養者(家族)・女性の比率が高い。

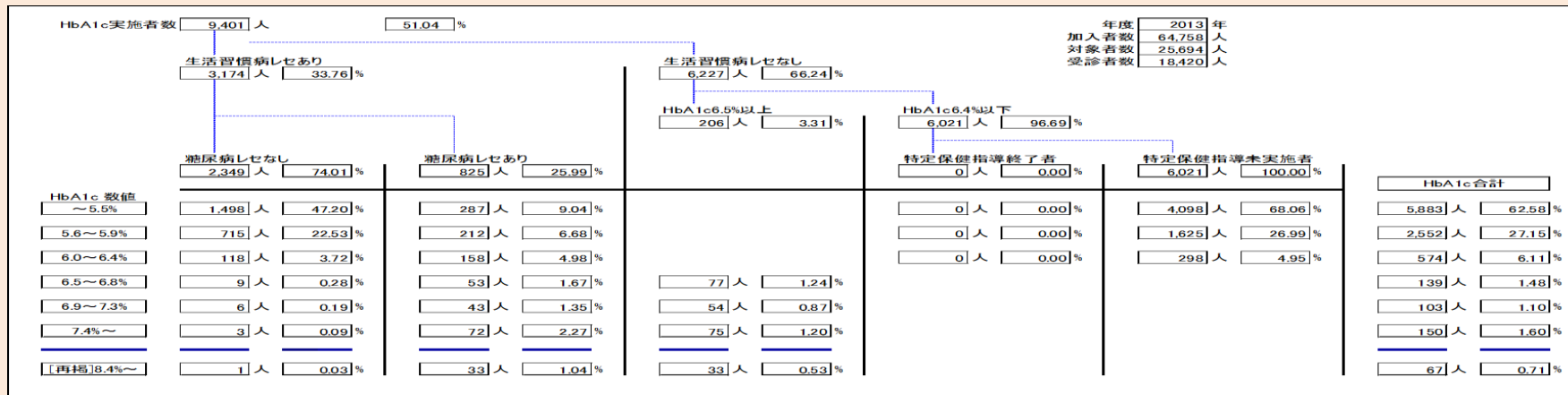
STEP 1 - 6 生活習慣病リスクと医療機関の受診状況等

ス. 脳卒中／心疾患



年度 2013年
 加入者数 64,758人
 対象者数 25,694人
 受診者数 18,420人

セ. 糖尿病



年度 2013年
 加入者数 64,758人
 対象者数 25,694人
 受診者数 18,420人

ス

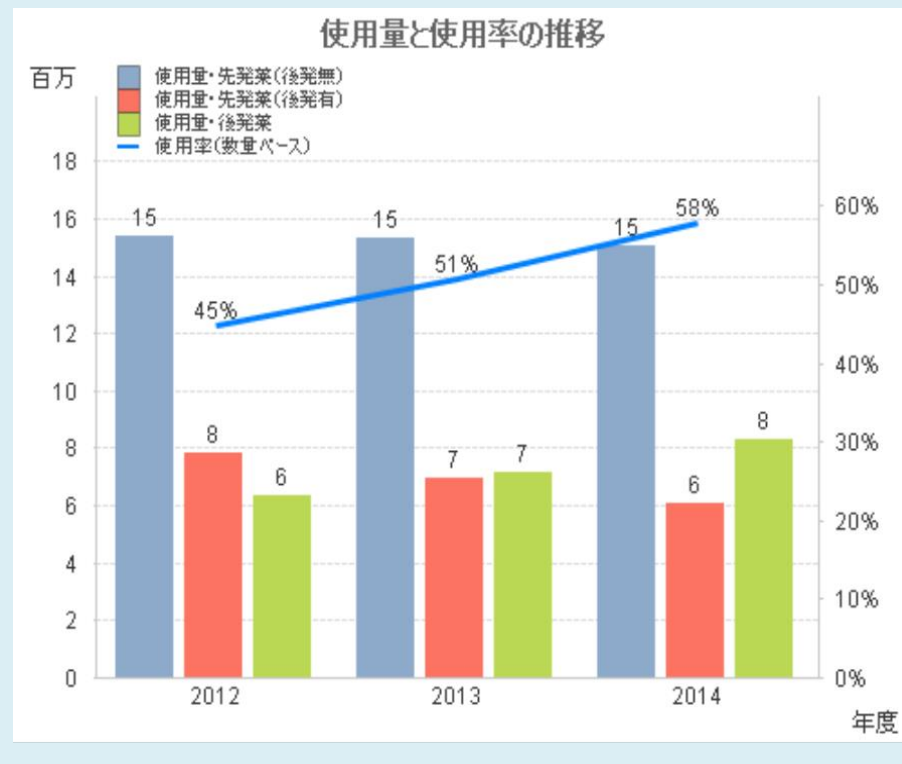
高血圧のリスクフローチャートの中で、生活習慣病のレセプトがなく収縮期血圧(SBP)が180以上・拡張期血圧(DBP)が110以上の者は52人であった。早期に医療機関への受診を促す必要がある。また、収縮期血圧(SBP)が180以上・拡張期血圧(DBP)が110以上で、高血圧のレセプトがある者66人、ない者4人には、健診受診前の服薬状況や治療内容等の聞き取り調査を行うなどの対応が考えられる。

セ

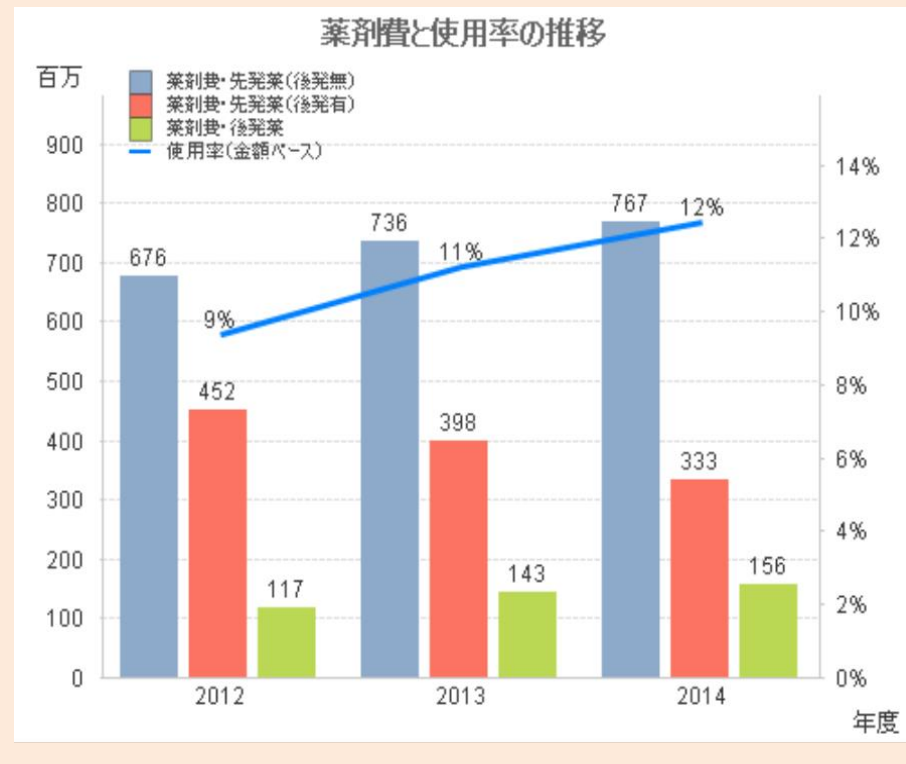
糖尿病のリスクフローチャートで、生活習慣病のレセプトがなくHbA1cが7.4%以上の者は75人であった。早期に医療機関への受診を促す必要がある。また、生活習慣病のレセプトがあるにもかかわらずHbA1cが7.4%以上の者は75人であった。これらは治療内容を本人から聞き取り調査するなどの対応が考えられる。

STEP 1 - 7 後発医薬品の使用状況

ソ. 数量ベース



タ. 薬剤費ベース



ソ 後発医薬品への切り替えは徐々に進んでおり、数量ベースで2014年度は58%の使用率であった。

タ 薬剤費ベースで集計した場合でも後発医薬品の切り替えは徐々に進んでいる。後発薬が存在する先発薬の使用は3億円強あるのでこれが切り替えの最大可能額となる。

STEP 2 健康課題の抽出

「全健保組合共通様式」

基本分析による現状把握から見える主な健康課題

コ サ シ	生活習慣病リスク保有者が健保加入者の8割を占める。
キ ク ケ ギ グ ゲ	<ul style="list-style-type: none"> ・「呼吸器系の疾患」に次いで「内分泌・栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」、「新生物」の医療費が高い。 ・腎不全、悪性新生物にかかる1人あたり医療費が高い。 ・高血圧症・や虚血性心疾患にかかる1人あたり医療費が、同業他健保より高額となっている。
ス セ	<ul style="list-style-type: none"> ・レセプトがなく、HbA1cや血圧が受診勧奨基準値のものが一定数存在する。 ・健診受診後の放置が虚血性心疾患等の高額レセプトの発生の一つの要因となっている可能性が考えられる。

対策の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・事業主・産業保健スタッフと協働して、特定保健指導を受けやすい職場環境の整備や職場での健康意識の醸成を進める。⇒コラボヘルス、職場イベント型事業 ・加入者の健康保持・増進を図るため、個々の健診データに基づく情報提供を行う。⇒情報提供媒体（QUPiO）の登録率向上
<ul style="list-style-type: none"> ・「内分泌・栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」は十分に予防が可能であり、特定保健指導対象者へのや、生活習慣病リスク保有者への対策を講じていく。⇒意識づけ、特定保健指導 ・従来の糖尿病重症化予防事業の実施強化を図ると共に、高血圧について平成27年度から事業を開始する。⇒重症化予防
<ul style="list-style-type: none"> ・血糖・血圧の重症化予防と同時に治療に結びつける受診勧奨も事業に組み込み、平成27年度から実施する。⇒受診勧奨

特徴

基本情報

- ・適用事業所数が多く、加入者数も多い。事業主拠点が全国に点在している。
- ・加入者構成では40歳代が最も多い。
- ・健保組合には、医療専門職が不在。

保健事業の実施状況

- ・血圧のリスク保有者への対策が特定保健指導のみ。
- ・被扶養者の健診受診率は他健保と比較し、低くはないものの半数は未受診となっている。
- ・QUPiOは従来のウォーキングイベント同様、参加者が固定化。

対策検討時に留意すべき点

- ・加入者が全国に点在するため、保健事業の実効を上げるには、事業主、産業保健スタッフとの協働が不可欠。
- ・ボリュームゾーンへの対策を重視。
- ・事業の取り進めにあたり、医学的な知識・経験が必要な場面では、事業主の医療専門職の意見を参考に、または外部事業者の活用を行う。

- ・高血圧の介入事業を実施。
- ・従来のハガキによる受診勧奨に加え、電話による勧奨も実施。
- ・事業主と協働し、QUPiO利用イベントの開催等通じ、既存サービスの浸透を図る。

STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算 科目	注1) 事業 分類	事業名	事業の目的および概要	対象者						注2) 実施 主体	実施計画			目標（達成時期：平成29年度末）			
				資格	対象 事業所	性別	年齢	対象 者	平成27年度		平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム			
職場環境の整備																	
加入者への意識づけ																	
保健 指導 宣伝	4	既存	健康情報提供 (QUPiO)	【目的】被保険者と被扶養配偶者の健康リテラシー向上。□ 【概要】健康ポイントプログラムを有するWEBサービスにログインする事で生活改善の計画立案や日々の行動記録が可能、健診結果に対する情報提供が得られる。	被保険者 被扶養者	全て	男女	18	～	74	全員	1	継続的なPRと事業主との連携強化。	継続	継続	登録率 80% (32,000名)	自らの健康状況・生活習慣改善の必要性の理解浸透。
	7	既存	機関誌発行	【目的】情報発信、健康意識の醸成。□ 【概要】機関誌（健保の運営、収支、保健事業、健康情報等の発行。（2回/年）	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	基準対象者	1	誌面の内容について工夫し、共通掲示板・HP等に掲示。	継続	継続	被保険者の内容確認（100%）	—
個別の事業																	
特定 健康 診査 事業	1	既存 (法定)	特定健診（被扶養者）	【目的】特定健診の受診率向上、加入者の健康維持。□ 【概要】メタボリックシンドロームに注目した健康状況の把握およびリスク者のスクリーニング。G会社であるLSIM社に健診予約・精算業務を全面委託。	被扶養者	全て	男女	35	～	74	全員	1	未予約者に対し受診勧奨を実施。	継続	継続	実施の促進（被扶養者の受診率 60%）	受診者の健康維持（情報提供群から特定保健指導群への悪化率10%未満）
特定 保健 指導 事業	3	既存 (法定)	特定保健指導（外部委託・集合契約）	【目的】特定保健指導の実施率向上、生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善。□ 【概要】（被保険者）□ 外部事業者を利用し、就業時間内に指導を実施。□ （被扶養者）□ 集合契約Bの利用券を送付し、近隣の医療機関にて指導を実施。	被保険者 被扶養者	全て	男女	40	～	74	基準対象者	1	外部事業者を選定。	継続	継続	実施の促進（実施率 50%）	実施者の健康改善（特定保健指導の非該当率40%以上）
保	3	既存	前期高齢者訪問指導事業	【目的】病气やけが等の予防および、頻回受診や重複受診等の問題受診行動の適正化。□ 【概要】加入者の健診結果及びレセプトを突合分析し、対象者を抽出、同意が取れた対象者に保健指導を実施。	被扶養者	全て	男女	63	～	74	基準対象者	1	指導内容を見直し継続実施。	継続	継続	実施の促進（応諾率 70%）	医療費の適正化（前期高齢者1人あたり医療費が化学工業健保平均値以内）
	3	既存	糖尿病重症化予防事業	【目的】糖尿病患者の人工透析移行防止。□ 【概要】健診結果及びレセプトを突合分析し、対象者を抽出。指導の同意の取れた対象者にタブレット端末を貸与、テレビ会議システムによる面談指導を実施。主治医にも指導内容を共有。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	基準対象者	1	事業主、産業保健スタッフと協働し、対象者全員に事業案内。	継続	継続	実施の促進（応諾率 50%）	加入者の透析移行患者 0名
	3	新規	高血圧重症化予防事業	【目的】高血圧の重症化予防。□ 【概要】高血圧の未治療者への受診勧奨、治療中かつ高血圧の対象者への服薬指導を行う。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	基準対象者	1	事業内容検討し外部事業者を選定、事業を実施。	継続	継続	実施の促進（応諾率 50%）	SBP≥180、DBP≥110の未治療者0名

STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					注2) 実施主体	実施計画			目標 (達成時期 : 平成29年度末)		
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム	
健指導 宣伝	4	既存	保健事業 (事業主)	【目的】被保険者本人の健康度の改善。□ 【概要】事業主が被保険者に向けて企画する健康に関する講演会やセミナー研修等に補助を実施。	被保険者	全て	男女	18 ~ 74	全員	2	事業所実情に応じ、実施内容等期中で自由に企画できるよう補助方法を変更し継続実施。また好事例は健康支援S会議等で共有、水平展開を図る。	継続	継続	企画の実行 (予算執行率100%)	健康度の向上
	1	新規	自己採血検査 (じぶんからだクラブ)	【目的】生活習慣病リスク保有者の生活習慣改善、健康状態の改善。□ 【概要】G会社である健康ライフコンパス社の展開するサービス「じぶんからだクラブ」利用時の自己負担が500円となるよう補助を実施。結果をQUPiOに登録し、健診と健診の間の確認として利用。(35歳以上 1回/年)	被保険者 被扶養者	全て	男女	35 ~ 74	全員	1	費用補助の仕組み等構築し、制度を周知し事業開始。	継続	継続	利用率向上 (対象者の20%)	健康度の向上
	7	既存	医療費・後発医薬品差額通知	【目的】後発医薬品の使用促進・調剤医療費の適正化。□ 【概要】WEB上で医療費・後発医薬品差額通知を確認できるサービスを導入。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ~ 74	全員	1	継続実施。花粉症等、季節性疾患流行時期に合わせて後発医薬品の周知を検討。	継続。花粉症等、季節性疾患流行時期に合わせて後発医薬品の周知の実施。	継続	利用被保険者数 6,000名□ 利用率 20%□	後発切り替え促進 (数量ベース 65%) □ ※国の目標 60%
	1	既存	生活習慣病検診	【目的】生活習慣病やがんの早期発見。□ 【概要】事業主健診実施時に健保が費用補助をし、大腸がん・胃がん検査・眼底検査を実施。□ ※対象 35歳以上の被保険者□ ※50歳以上の男性被保険者については前立腺がん検査の補助を実施□ ※女性被保険者については年齢にかかわらず乳がん・子宮がん検査の補助を実施	被保険者	全て	男女	35 ~ 74	全員	2	母体企業の胃がん検査を胃バリウム検査からABC検診に変更。	継続	継続	女性被保険者検診 (受診率80%) □ その他検査 (受診率100%)	早期発見早期治療による医療費抑制□ (1人あたり医療費の同業他健保平均以下) □
	1	既存	人間ドック・脳ドック	【目的】生活習慣病やがんの早期発見。□ 【概要】特定健診項目に各種がん検査項目を追加して同時に実施。G会社であるLSIM社に健診予約・精算業務を全面委託。	被保険者 被扶養者	全て	男女	35 ~ 74	全員	1	過剰サービスや、事業主健診との重複等勘案し、補助金額を見直し。	継続	継続	実施の促進 (加入者受診率80%)	受診者の健康維持 (情報提供群から特定保健指導群への悪化率10%未満)
	1	既存	女性配偶者健診・一般健診等	【目的】生活習慣病やがんの早期発見。□ 【概要】特定健診項目に各種がん検査項目を追加して同時に実施。G会社であるLSIM社に健診予約。精算業務を全面委託。	被保険者 被扶養者	全て	男女	35 ~ 74	全員	1	費用負担は見直さず、電話による受診勧奨を実施。	継続	継続	実施の促進 (加入者受診率80%)	受診者の健康維持 (情報提供群からの特定保健指導群への悪化率10%未満)
	4	新規	健康イベント	【目的】職場での健康意識の醸成。□ 【概要】QUPiOを利用し、事業主と協働してイベントを開催。期間を決めてエントリーを募り、個人・グループ毎に達成賞等表彰を行う。	被保険者	母体企業	男女	18 ~ 74	全員	3	事業主と協働し、イベント内容を検討・実施。	前年度評価・内容検討・継続。	前年度評価・内容検討・継続。	エントリー数 7,000名	健康度の向上
その	1	既存 (法定)	特定健診 (被保険者)	【目的】特定健診の受診率向上、加入者の健康維持。□ 【概要】事業主が行う定期健診にて実施。メタボリックシンドロームに着目した健康状況の把握およびリスク者のスクリーニング。	被保険者	全て	男女	18 ~ 74	全員	2	データ不備等改善し継続実施。	継続	継続	実施の促進 (被保険者受診率 90%)	受診者の健康維持 (情報提供群から特定保健指導群への悪化率10%未満)

STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者						注2) 実施主体	実施計画			目標 (達成時期 : 平成29年度末)		
				資格	対象事業所	性別	年齢		対象者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム	
他	3 既存(法定)	特定保健指導 (保健師労務費負担)	【目的】特定保健指導の実施率向上、生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善。 【概要】事後措置の一環として会社保健師が特定保健指導を実施、それにあたり健保が労務費を負担。	被保険者	母体企業	男女	40	~	74	基準対象者	3	事後措置の保健指導強化基準に特定保健指導の基準を組み込み、健診後の事後措置として特定保健指導を実施。	継続	継続	実施の促進 (実施率50%)	実施者の健康改善 (特定保健指導の非該当率40%)

注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業